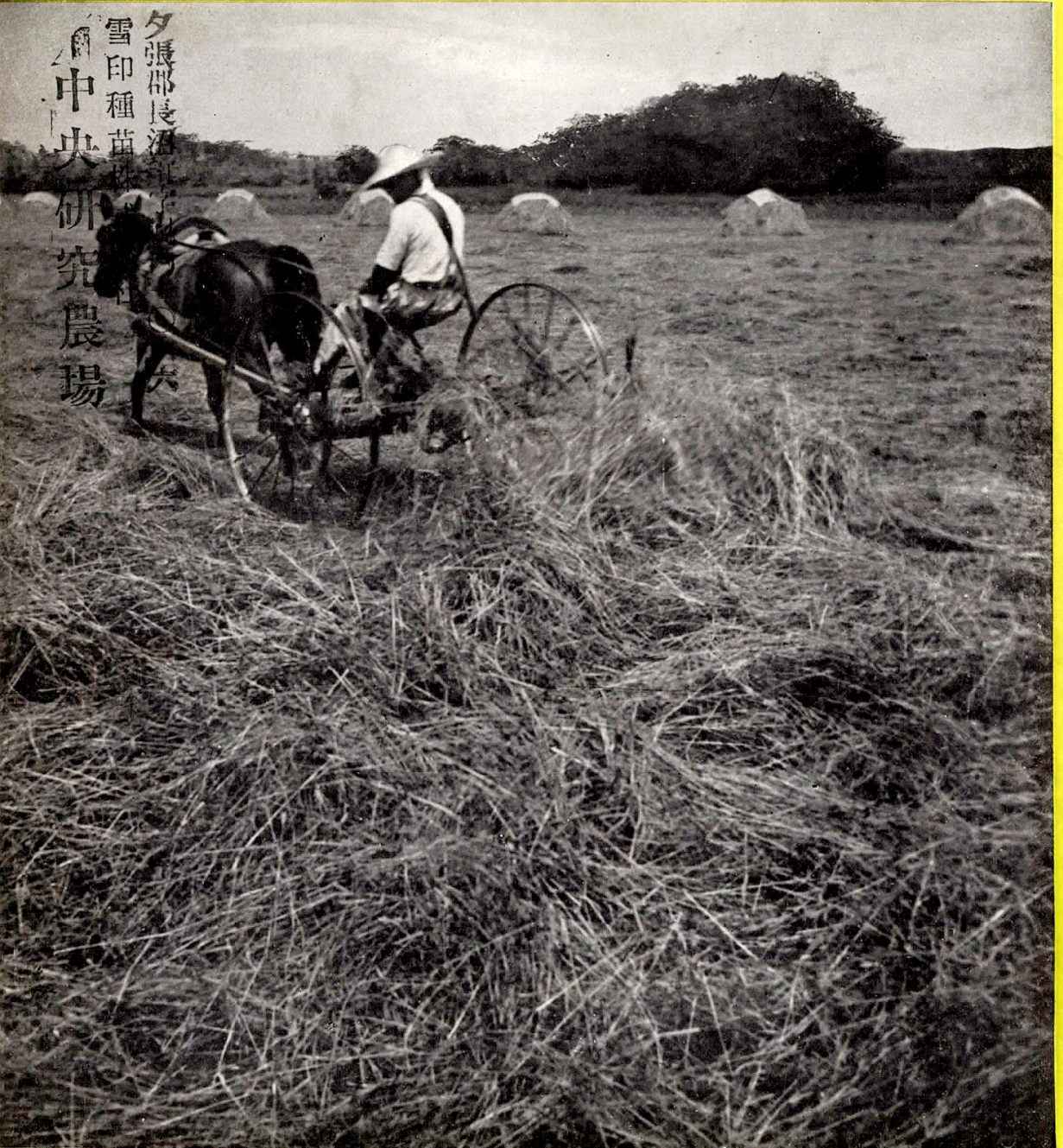


藝園草牧

第三卷・第八号

昭和二十八年五月十五日第三種郵便物認可
昭和三十年八月一日(毎月一回一日)發行



夕張郡長沼町
雪印種苗株式會社
中央研究農場

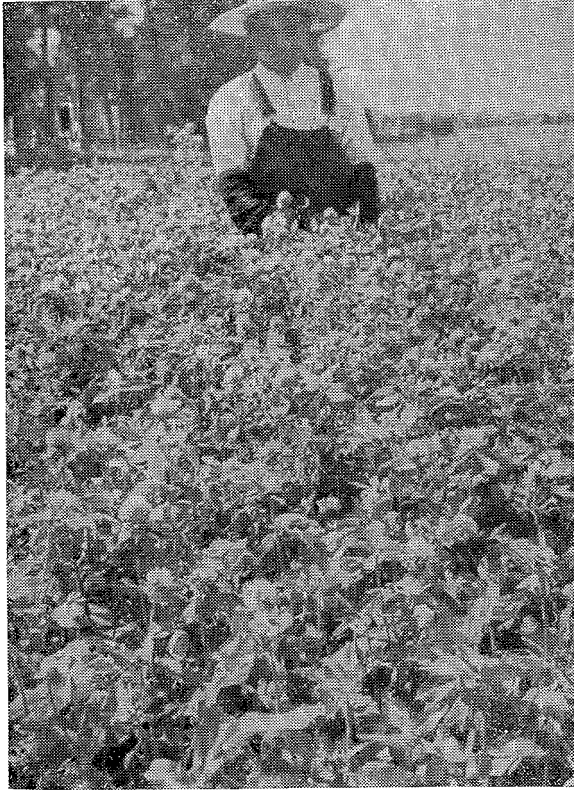
雪印種苗株式會社

「ケンランド」の紹介

中野 富雄

飼料兼緑肥作物として赤クロバリーは古くから農業経営の中にとり入れられ、有畜経営には欠くべからざるものとなつており、年々全国で七〇〜八〇万町の種子が消費されてゐる。これは赤クロバリーが比較的栽培

容易であり、しかも収量及び營養価高く、緑肥価値も顕著であることによるが、その種子の国内生産量は十分ではなく、目下のところ相当量の種子が輸入されている。輸入先は米國、ニュージールランド、カナ



開花期におけるケンランド

最近輸入された米國新品種の中で、ケンランドは同國における南部型の優良系統として推奨されているもので、今後わが國の府県暖地向の適品種として利用できるものと考えられるので以下その概要を紹介する。

ケンランドは一九四三年に米國ケンタッキー農業試験場（北緯三七度、日本の福島県附近）で育成され、附近の農家で利用の結果六〇%の増収を見たとされる。この附近の赤クロバリーはそれ以前には二年目になると株が菌核病や炭疽病のために枯死して、ほとんど見るべき収穫がなかつた

のであるが、ケンランドはこれらの病害に強くかつ多収の性格を持つていた訳である。

ケンランドは赤クロバリーの中で中生の二回刈用の系統で南方型炭疽病に極めてよく、菌核病にもかんりの抵抗力をもつてゐるものである。わが國の在来種に比して茎葉はやや大きく毛茸の量も多い。分蘗や再生力も在来種に優つてゐる。利用年限も在来種より一年長く三年目まで経済的に利用することができるものである。収量に関する調査成績は第一表の通りで他の系統に優る収量を示している。今後府県の温暖地における赤クロバリー栽培に際しては是非共試作されることを御奨めするものである。

註 炭疽病には南部型と北部型とがあり、病徴はいずれも類似するが、病原菌を異にする。北海道に発生する炭疽病は北部型に属するものであり、南部型のもものは一〇度C〜三五度Cの地帯に発生する。ケンランドは南方型炭疽病につよいが、北方型炭疽病には冒される。

（雪印種苗・上野幌育種場長）

第一表 ケンタッキー州における調査（北緯三十七度わが國の福島県附近に相当する）

赤クロバリー系統名	年次及び乾草収量（反當貫）			
	一九四四年	一九四五年	一九四六年	一九四七年
ケンランド	九五・四	一六三・三	三〇四・〇	一七六・〇
ケンタッキー二一五	九一・三	一五四・六	二六九・三	一一三・三
カンペーランド	九五・三	一三五・三	二四九・三	一一三・〇
ミッドランド	八七・三	一二八・〇	三三五・三	八四・六
				平均
				一七〇・〇
				一四三・三
				一三六・六